

## 大学教育再生加速プログラム(AP) 事後評価結果

整理番号	50	大学等名	福岡女子大学
テーマ	テーマⅣ 長期学外学修プログラム（ギャップイヤー）		

### （「大学教育再生加速プログラム委員会」による評価）

#### 【総括評価】

B：概ね計画に沿った取組が行われ、一部で十分な成果がまだ得られていない点もあるが、本事業の目的をある程度は達成できたと評価できる。

#### 【コメント】

大学改革の加速については、新たに開発された新しい長期学外学修プログラム「Expanding Your Horizons プログラム」（以下、「EYH プログラム」という）を推進するために、クォーター制の導入により学生が長期学外学修を実施しやすい学修環境を整備した上で、海外9プログラム、国内14プログラムを安定的に実施していることは評価できる。

事業の具体的な取組の進捗状況については、当該大学の教育理念である「国際化と多様化する社会で幅広く活躍できる次代の女性リーダーの育成」に基づき、EYH プログラムを軸とした海外諸国との交流がなされていることは評価できる。一方で、必須指標である「学生の授業外学修時間」の令和元年度実績値が目標値を大きく下回っているだけでなく、補助期間中に一度も目標値を達成できていない。この点については、中間評価及びフォローアップにおいても繰り返し指摘されており、原因分析と改善策は実施されているが、それらの取組が成果につながっていないと考えられる。これまで実施してきた改善策の成果を検証するとともに、抜本的な対応策を検討し、引き続き努力することが望まれる。

事業の定着に向けた実施体制及び継続のための取組状況については、本事業に特化した審議機関である「AP 推進会議」や運営サポートを行う「AP 推進室」を中心に、EYH プログラムに関して、学生の報告に基づく評価、研修先から評価書による評価、担当教員の調査による評価及び客観的評価を PDCA サイクルに取り入れプログラムの改善を行ってきたことは評価できる。しかし、補助期間終了後のプログラムの評価・改善については、本事業の取組を推進してきた「AP 推進会議」及び「AP 推進室」の役割・ノウハウが学内組織にどのように引き継がれるのか不明確である。補助期間終了後は、AP 専任教員のノウハウを学部の専任教員に移行させ、AP 推進室のスタッフ1名を継続雇用した上で、学内の学部組織の中で体制を維持していくとのことであるが、上記の必須指標の改善も含めた組織的な PDCA サイクルを機能させるためには、学内において、本事業の取組を継続的に牽引し、かつ発展させていく推進体制の構築が強く望まれる。

事業成果の普及については、EYH プログラムに関して、学内の学生や教職員への成果の普及は良く取り組まれている。一方で、学外への波及の観点からは、報告会、シンポジウムや報告書にとどまり、積極的な情報発信がなされていたとは言い難いことから、より一層力を入れて取り組まれることを期待する。